

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	きららにじぐみ(保育所等訪問支援)		
○保護者評価実施期間	令和8年1月26日		～ 令和8年 2月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 16名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	令和8年1月26日		～ 令和8年 2月 11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 20名	(回答者数)	11名
○訪問先施設評価実施期間	令和8年1月26日		～ 令和8年 2月 11日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数) 8施設	(回答数)	8施設
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問支援員と多職種(保育士・社会福祉士・言語聴覚士)が従事しているため、お子さん一人の支援に様々な視点で関わることができる。チームで支援ができている	随時カンファレンスを通して、利用児の姿を情報共有している。 モニタリングでは、それぞれの技術や役割をもとに意見を出し合い、個別支援計画に記載された内容の実行状況を確認し、見直し案を検討している。	それぞれの専門性を理解するために研修を行う。
2	児童発達支援や放課後等デイサービスを行っていることもあり、にじぐみに通っている利用児がほとんどである。そのため、児童発達支援または放課後等デイサービスの様子もわかり、訪問サービス時に療育での様子が伝えやすい	療育でできること、保育園等でできることを多職種で検討し、連続した支援ができる	訪問先の事業所を含めたカンファレンスができるようにしていきたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	にじぐみを利用している保護者間のつながりが少ない	児童発達支援管理責任者や指導員が保護者と面談を行っているが、保護者同士で話ができる機会がない。	保護者会や茶話会、または保護者に向けた研修会等の中で、保護者同士のつながりができたらよいと考えている。また、子育ての悩み等も話せる場ができれば良いと考える。
2	他事業所との交流の機会が少ない	担当相談員とは連携ができてはいるが、他の事業所や他園とはモニタリングの機会等の必要最低限になっている	利用児の細かな変化を共有する機会をつくれるよう、当事業所発信で連絡をする機会を増やしていきたい